

ねん がつ にち
2023年6月11日

せいたい しゅじつ
キリストの聖体の主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

せいたい
ご聖体のいけにえは、「キリスト 教的生活全体の源泉であり 頂点」であって、感謝の祭儀
にあずかることで、キリスト者は「神的いけにえを神にささげ、そのいけにえとともに
自分自身もささげる」と 教会憲章は記しています(11)。キリストの聖体は、教会生活
の中心であり、ご聖体のうちに主御自身が現存され、わたしたちとともに常におられます。

せいたい ひせき
ご聖体の秘跡は、わたしと主との交わりという意味で、極めて個人的な秘跡でもありま
すが、同時にそれは 共同体の秘跡でもあります。そもそもミサそれ自体が、個人の信心
ではなくて、共同体の交わりの祭儀です。わたしたちは常に、共同体の交わりのうち
にご聖体をいただきます。

しさい
ですからたとえ司祭がひとりでミサを捧げたとしても、それは司祭の個人的信心のため
ではなく、共同体の交わりのうちにあつて、司祭はミサを捧げます。

きょうこう にせい きょうかい あた せいたい つぎ しる
教皇ヨハネ・パウロ二世の「教会にいのちを与える聖体」には、次のように記されて
います。

しさい さいぎ おこな
「(司祭が祭儀を行うこと) それは司祭の霊的生活のためだけでなく、教会と世界の善
のためにもなります。なぜなら『たとえ信者が列席できなくても、感謝の祭儀はキリス
トの行為であり、教会の行為だからです』」(31)

きょうかい てがみ さ からだ
パウロはコリントの教会への手紙で、「わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあず
かることではないか。パンは一つだから、わたしたちは大勢でもひとつの体です。皆が一
つのパンをわけて食べるからです」と述べて、聖体祭儀が共同体の秘跡であることを
強調しています。

わたしたちの^{しんこう}信仰と^{きょうどうたい}共同体は切り離すことができません。パウロはコリントの^{きょうかい}教会への^{てがみ}手紙に、「わたしたちが^{かみ}神を^{さんび}賛美する^{さんび}賛美の^{さかずき}杯は、キリストの^ち血にあずかることではないか。わたしたちが^き裂くパンは、キリストの^{からだ}体にあずかることではないか」と記します。わたしたちがキリストの^{からだ}体と^ち血に「あずかる」ということが、すなわち^{きょうどうたい}共同体における「^{まじ}交わり」の^{いみ}意味であります。わたしたちの^{しんこう}信仰は、キリストの^{からだ}体である^{きょうどうたい}共同体を通じて、キリストの^{からだ}体にあずかり、いのちを^わ分かち^あ合い、^{あい}愛を^{きょうゆう}共有するという「^{まじ}交わり」のなかで、^い生きて^{しんこう}いる信仰です。

ご^{せいたい}聖体をいただくわたしたちは、^{ひと}一つのキリストの^{からだ}体にあずか^{あずか}り、キリストの^{からだ}体をと^かともに^{かたちづく}形作るものとして、キリストにおける^{いっち}一致をあか^あしするものでなくてはなりません。キリストの^{せい}聖体の^{いわ}お祝いは、^{しゅ}主御^ご自身^{しん}がご^{せい}聖体の^{げん}うちに^{げん}現存され、ともに^いいて^くくださることを^{たた}称えるのみならず、ご^{せい}聖体をいただくわたしたちが^{まじ}交わりの^{いっち}うちに^{いっ}一致していることを^{せっきよくてき}積極的^{けつ}にあか^いしする^{あら}決意を新たにするときでもあります。